



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2021年09月27日 第1037号「週刊五十嵐レポート」

社長の性格

「経営の目的は？」と聞かれたら、ほとんどの人は「利益の追求」と答える。間違いではないが、利益を多くする方法を知らない人は、油断すると本業とは関係のない一見儲かりそうな商品・サービスや業種に飛びつくことが多い。このような理由から小さな会社では、経営の目的は、強いモノ作り、競争力のある商品作りや1位の地域作りに定めると失敗は少ない。

商品作りには社長個人の性格が大きく影響を受ける。重点商品が社長の性格に合っていると良い方向に行くことが多い。(「性格」とは、行動のしかたに現れる、その人に固有の感情・意志の傾向)(仏教の三毒、「貪」ほしいものをむさぼる。「瞋」好ましくないものに対する怒り。「痴」真理に対する無知)ただ儲けたいという「欲の深さ」だけで商品・サービスを決めるとすぐに失敗する。(本人は欲深いと思っていない)

ある社長の話。以前、取引先からこれは売れるから作ってと、自分は気乗りしなかったが作って見たらやはり良くなかった。今は自分の気持ちの入っている物を作り、売っている。顧客から共感され、支持されている。性格に合っているものがないと実感。

ある社長は、営業地域の範囲を狭め、時間は掛ったが顧客を密集して作ることができた。地域外の仕事は断れるようになった。「欲」を抑えることができた。その代わり、地域内では知名度が高まり、同業者が営業すると、その顧客が「他社からこんな営業が来たけれど、オタクはできる？」と声をかけてくれる。競争相手の営業が自社の営業が変わってしまう。経営における粗利益の補給源を強化することを学んだことで「欲」と「無知」を解消した。

またある社長は、地元地域一番を目指し着々進めているものの、近くで超大手企業群が大規模な開発が始めていると、そこになんとか参入できないかと模索している。そこは弱者の市場ではなく強者の市場になる。参入しても下請け孫請けになるだけ。価格も叩かれる。もう一度、小さな会社の経営の目的は何かを問いたい。なかなか性格「欲の深さ」は直せない。

ちょっと
気になる出来事

9月24日付日経新聞に「ホンダ、車に『アンドロイド』」という記事。

ホンダは米グーグルとの連携を強化。ホンダの車両にグーグルの自動車向けOS「アンドロイド・オートモーティブ」を組み込む。

通信回線を経由して車に直接アプリを取り込む。走行など安全に直結する領域以外でグーグルの音声制御機能を活用、グーグルはカーエアコンや座席ヒーターの調整などを使うことを想定。

グーグルやアップルなどのIT大手が成長領域として自動車への関心を強める。一部の自動車メーカーは「付加価値の源泉を奪われる」と距離を置く一方、「アンドロイドは使用変更の自由度が高く利用者にも利点がある」。

ホンダは、自動車とITの融合が進み環境適応への負担が増す中、必要な技術確保に向けて事業提携を積極的に活用する路線に転じている。

パソコンのOSはマイクロソフトのWindows、スマホはアップルのiOS、グーグルのアンドロイド。さて自動車のOSは・・・。



一口メモ
知識

修辞

辞を修めその誠を立つるは、業に居るゆえなり。

誠実に思いを伝えられるのは、自分の業にしっかり身を置いているからである。

「修辞」は饒舌(じょうぜつ)に飾り表現された言葉という意味ではなく、本来、「簡潔明瞭で力強い言葉」、効果的で分かりやすく、適切で説得力のある、生きて伝わる言葉をいう。

特に、上に立つ者はこの「修辞」＝「伝える技術」を身につけなければならない。

「黙っていてもわかってくれる」と考えるのは怠慢である。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

